Ⅵ　社会貢献

【到達目標】

・公開講座や講演会等の開催を通じて、地域住民に生涯学習の機会を積極的に提供する。
・本学が有する大学施設をできるだけ県民に開放するとともに、健康講座等の開催により、教育研究上の成果を広く県民に還元する。
・産業界その他民間団体等との協力や連携を通じて研究成果の応用を推進する。

1　医学部・大学院医学研究科

1－1　社会への貢献

◎主要点検・評価項目

・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度
・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況
・教育研究上の成果の市民への還元状況

【現状】

学生の社会活動、地域医療への参加を推進し、地域との交流、医療への学生の関心を高めるため、入学後から、医療・福祉の現場を体験する「Early Exposure」を実施し、地域の病院での研修を行っている。それは、保健・医療・福祉の幅広い視点をもった総合的な健康づくりを推進できる人材を育成するカリキュラムである。

学生には、住民との触れ合いから医療人として人間の理解を深めることや信頼関係を築くための協調性・コミュニケーション能力や多様な情報を捕らえ適切な判断をする力を習得することが期待できるものである。

医学部では、地域社会に開かれた大学として、多様化・高度化する保健医療に関して県民のニーズに対応するために、次の講座等を開催している。

(1)最新の医療カンファランス

最新の医療カンファランスは、平成 16 年度に、医療従事者を対象とした「最新の医療・研究カンファランス」から、一般県民を対象とした「最新の医療カンファランス」へとリニューアルした。平成 17 年度のテーマ「高齢社会を生き抜くための常識・非常識―生活習慣病予防から介護までを体験しませんか」に引き続いて、平成 18 年度は「明日を生き抜く医療知識と実践―今日からできる健康管理の方法を学びませんか」と題して、生活の中ですぐに実践できるような健康管理方法を中心に内容を選んだ。平成 18 年度に引き続き、食事、運動、心のケア、薬の管理方法など、実際に体験できる内容を取り入れることを心がけ企画した。おかげで

多数の参加をいただき、アンケートにも大変熱心に回答を寄せていただいた。そして、県民の健康知識および健康管理方法への関心の高さをひしひしと感じた。

平成19年度は、「明日を生き抜く医療知識と実践ーここまで進んだ病気の診断と治療」と題して、各科における最新の診断・治療法について講演予定である。前期実施分の内容としては、1）脳の病気、2）心臓の病気と救急医療、3）胃腸の病気、4）整形外科の病気、5）癌診断の最前線、などである。日頃の外来ではなかなか時間が取れない主治医から講演予定である。

表Ⅵ－1　最新の医療カンファランスの開催状況

	開催日	テ　ー　マ	講　　師
1	H18. 4.13	アスベストの正しい知識	環境予防医学講座　井口　弘
		鳥インフルエンザの正しい知識	和歌山県海南保健所　松田信治
2	H18. 5.11	65歳からの運動、歩行の実践	和歌山大学　本山　貢
3	H18. 6. 8	更年期障害の実際と家庭でできること	保健看護学部　池内佳子
		更年期以降を快適に過ごすための基礎知識	労災病院　辰田仁美
4	H18. 7.13	病気になる前に見直したい日頃の食事	病態栄養治療部　井藤幸恵
5	H18. 9.21	65歳からの心のケア、体のケア	神経精神科　郭　哲次
			保健看護学部　水主千鶴子
6	H18.10.12	正しい薬の飲み方と栄養補助食品の使い方	薬剤部　大西健生
			大阪青山大学　宮本邦彦
7	H18.11. 9	メタボリック・シンドロームって何？	教育研究開発センター　羽野卓三
			循環器内科　友渕佳明
8	H18.12.14	腰痛　自己管理と家庭での対応	整形外科　安藤宗治
			リハビリテーション科　小池有美
9	H19. 1.11	口腔（口の中）のがん	県健康対策課長　黒田基嗣
			歯科口腔外科　和田　健
			新宮市民医療センター　中谷　現
10	H19. 3.22	暮らしに役立つ漢方と鍼灸	関西鍼灸大学　若山育郎
			関西鍼灸大学　坂口俊二

(2)健康講座

保健・医療の知識を深め、地域の一般市民の健康増進に役立てていただくため、学外で健康講座を開催している。平成18年度は以下のとおり開催し、講演後、会場から質疑を受け、日常生活において、健康維持に実践できる健康法、気を付ける点等を紹介した。

日　　時　：　平成18年12月4日（月）13：30～14：30

場　　所　：　九度山町ふるさとセンター　和歌山県伊都郡九度山町九度山1190－1

テ　ー　マ　：　「高齢者に多い病気の予防」シリーズ

プログラム　：　「尿もれ　尿失禁について」　泌尿器科　准教授　上門康成

参加人数　：　33名

(3)公開講座

保健・医療の知識を深め、地域の一般市民の健康増進に役立てていただくため、新任教授を中心に学内で公開講座を開催している。平成18年度は以下のとおり開催し、講演後、会場から質疑を受け、日常生活において、健康維持に実践できる健康法、気を付ける点等を紹介した。

日　　時　：　平成19年2月8日（木）14：00～16：00
場　　所　：　生涯研修・地域医療センター　3階　研修室
テ　ー　マ　：　すこやかに生きる
プログラム　：　「狭心症・心筋梗塞の危険因子とその対策」循環器内科　教授　赤阪隆史
「腎臓が悪いと言われたら？蛋白尿や尿潜血が見られる時」
腎臓内科・血液浄化センター　教授　重松　隆
参加人数　：　39名

(4)出前講座

開かれた大学、地域・社会貢献のできる大学を推進するため、原則として県内の学校や教育委員会（以下「学校等」という。）の関心が高いテーマについて、学校等からの希望に応じ、大学の教員が直接出向く「出前授業」を実施し、小学生、中学生、高校生に、医学・医療等の正しい認識と新たな興味を持っていただくことを目的としている。

表Ⅵ－２　出前講座の開催状況

開催日	担当教員	テ　ー　マ	学校名	対　象
H18. 7.13	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科 田島教授	熱中症にならないために	田辺市立 新庄中学校	全校生徒176名
H18. 9. 8	救急集中治療部 篠崎教授	地震、津波、列車事故などで命を助けるためには	和歌山市立 西和中学校	1年生170名
H18.10.24	皮膚科 古川教授	にきびは何故できる	有田川町立 八幡中学校	1年生320名
H18.10.26	看護部９－西 森沢師長	看護師の業務	向陽高等学校	全校生徒68名
H18.11. 6	第２病理 宇都宮講師	みんなの食育	印南町立 切目川小学校	4.5.6年40名 計200名
		みんなの食育	みなべ町立清川 小学校・中学校	全校生徒・保護者 計200名
		みんなの食育	かつらぎ町立 渋田小学校	全校生徒110名 保護者30名
H18.11. 7	血液浄化センター 重松教授	子供から始まる「骨を守ろう」	かつらぎ町立 妙寺小学校	4～6年生186名

		子供から始まる「骨を守ろう」	和歌山市立 加太小学校	5,6 年生 58 名
H18.11. 9	第２病理 中村助教授	なぜけがが治るのか？	和歌山市立 本町小学校	5,6 年生 55 名
H18.11.14	第１解剖 上山助教授	「ストレスを理解しよう」	岩出市立 岩出中学校	3 年生 302 名
H18.11.15	救急集中治療部 篠崎教授	ドクターヘリはどんな時飛ぶのか？	橋本高等学校	保健委員 30 名
H18.11.16	第２生理 前田教授	人を好きになったらどうして胸がときめくの	向陽高等学校	1 年生 320 名
H18.11.17	薬理学 岸岡教授	麻薬・覚せい剤と薬物乱用	和歌山高等学校	全校生徒 700 名
H18.11.20	第２解剖 仙波教授	「ストレスと脳の話」	笠田高等学校	全校生徒 700 名
H18.11.21	神経精神科 篠崎教授	成長する「こころ」の取り扱いマニュアル	紀北工業高等学校	1 年生 30 名
H18.11.28	神経精神科 篠崎教授	成長する「こころ」の取り扱いマニュアル	南紀高等学校 看護科	1,2 年生 72 名
H18.11.29	第２解剖 仙波教授	医学者への道	新宮高等学校	2 年生 30 名
H18.11.29	第１外科 岡村教授	医学者への道	新宮高等学校	2 年生 30 名
H18.11.30	第２病理 宇都宮講師	みんなの食育	和歌山市立 砂山小学校	1 年生 62 名
H18.12. 5	第２病理 中村助教授	なぜけがが治るのか？	和歌山市立 広瀬小学校	6 年生 41 名
H18.12. 8	産科婦人科 梅咲教授	こんにちは赤ちゃん―生命誕生のヒミツ	有田市立 田鶴小学校	6 年生 51 名
H18.12.18	皮膚科 古川教授	にきびは何故できる	和歌山市立 明和中学校	1～3 年生 約 50 名
H19. 1.16	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科 田島教授	車ｲｽﾏﾗｿﾝと普通のﾏﾗｿﾝとどちらがはやい？	海南市立 内海小学校	全校児童 281 名 保護者約 12 名
H19. 1.29	薬理学 岸岡教授	麻薬・覚せい剤と薬物乱用	東陽中学校	3 年生 153 名
H19. 3.16	臨床検査医学 三家教授	血液と尿の検査で何がわかるの	桐蔭高等学校	1,2 年生 約 30 名
H19. 3.16	泌尿器科	イブとアダムのお	桐蔭高等学校	1,2 年生

	新家教授	話		約30名

(5)コンソーシアム和歌山公開講座

和歌山県下の高等教育機関（和歌山大学、和歌山県立医科大学、高野山大学、近畿大学生物理工学部、和歌山県立医科大学看護短期大学部、和歌山信愛女子短期大学、和歌山工業高等専門学校、放送大学和歌山学習センター）が連携、協力し、地域への更なる貢献に寄与するため、平成13年8月に高等教育機関コンソーシアム和歌山を設立した。地域における生涯学習のニーズに応えるため、毎年、共同公開講座を開催している。

本学の生涯研修・地域医療支援センターは、地域の保健医療従事者の生涯教育、一般県民に対し、健康や保健、医療に関する情報を発信し、生涯学習の充実を図ることが使命の1つとして揚げられ、この共同公開講座に参画している。平成18年度は以下のとおり、本学から講師を派遣し、地域において講座を開催した。

日　　時　：　平成18年5月30日（火）10：00～12：00
場　　所　：　河南コミュニティセンター　和歌山市布施屋41番地
テ ー マ　：　「知的障害児・発達障害児とのコミュニケーション」
講　　師　：　和歌山県立医科大学　小児科　講師　南　弘一
講演内容　：　「子どもの発達について」

日　　時　：　平成18年10月21日（土）14：00～16：00
場　　所　：　和歌山大学生涯学習教育研究センター　和歌山市西高松1丁目7番20号
テ ー マ　：　「おもしろバイオ入門講座～和歌山のバイオの現況～」
講　　師　：　和歌山県立医科大学　脳神経外科　教授　板倉　徹
講演内容　：　「バイオで治す脳の病気」

【点検・評価】

本学では、「開かれた大学」をモットーに社会との文化交流等を教育・研究の観点から積極的に推進していくため、いくつもの試みを実践してきた。これらの事業は、学内外のニーズに対応できていることは評価できる。

また、学生を含む県民に無料で多種多様な講座を提供していることで、一定の成果を上げており評価に値する。しかし、講座の編成がややもすれば県民のニーズに合わせるがゆえに、大学としての教育・研究の成果を正確に反映できないジレンマをもっているという側面もある。

【改善・改革に向けた方策】

今後とも、講座等の開催を通じて、県民に向けた学習機会の提供を積極的に行うとともに、教育研究上の成果を広く県民に還元する。

また、医学の研究成果を地域産業の活性化、健康福祉、公衆衛生活動に展開させるため、本学教

員による各種の研修会での講演や地域活動を行っていく。

１－２　企業等との連携

◎主要点検・評価項目

・企業と連携して社会人向けの教育プログラムを運用している大学・学部における、そうした教育プログラムの内容とその運用の適切性

・寄附講座の開設状況

・大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策

・企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況

・特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況

・産学連携に伴う倫理綱領の整備とその実践状況

【現状】

大学を巡る経済的環境、教育的環境は大きく変化しつつあり、質の高い教育を行い優れた医療人を育成することと、自立性の高い経済的基盤が求められている。

近年、産官学共同研究のあり方は大きく変化し、知的財産に関しては、平成 15 年度から知財戦略大綱の方向性が示された。

なお、本学では、産官学にまたがる教育研究を推進することにより、県民の健康増進、地域産業の振興など本学の医学・保健看護学の分野における社会貢献への一層の寄与を推進している。平成 18 年４月の法人化に伴い、研究・診療の充実、学部・大学院教育及び卒後生涯教育の充実及び経済的自立に向けた外部資金の導入を目的として、公立大学法人産官学連携推進本部を設置したところである。

本学の産官学交流の推進体制としては、県民の健康増進、地域産業振興など本学の医学・保健看護学の分野における社会貢献を目的とし、産官学連携推進本部が主体となって政府公共機関や産業界との情報交換、技術相談、受託研究（委託者から依頼を受けて行う研究）・共同研究（企業等との研究者と共通の課題について、対等な立場で共同して行う研究）、寄附講座の推進を図っている。

産官学連携推進本部は、理事会直轄組織であり、その役割としては、

①産官学連携の研究交流推進

②交流ネットワークの構築

③コンサルティング及び研究者紹介

④公的研究助成費の導入支援及び情報提供

① 種申請事務、各種団体による研究助成の窓口機能

等があげられ、研究活動の目的に応じ、関連分野の各研究室の紹介を行うほか、受託・共

同研究などの研究交流、寄附講座等の相談窓口としての総合的な活動及び業務を行っている。

また、県民の健康増進・地域産業振興など大学の知的資源を企業等の研究開発ニーズに結びつけるため、「健康増進・癒しの科学センター」、「臨床研究管理センター」「先進医療開発センター」の３つのセンターが主軸となり、産官学連携を支援している。寄附講座は、奨学を目的とする民間からの寄附金を有効活用し、公立大学法人和歌山県立医科大学の主体性の下に設置運営し、教育研究等の進展及び充実を図るとともに、地域振興等に大きな成果を生むことを目的としている。

産官学連携推進本部

先進医療開発センター	臨床研究管理センター	健康増進・癒しの科学センター
○目的 ① 先端医療の開発および普及 ② 細胞・遺伝子治療に関する研究 ○センター長 坂口 和成 ○センター構成員 各事業部門の長（兼任）、 事務局等 ○センターが行う事業 ・先端医療開発普及講座、 ・細胞・遺伝子治療学講座（予定）	○目的 ① 受託事業、共同事業の管理 ② 治験の管理 ③ 知的財産の管理 ④ トランスレーショナルリサーチ ○センター長 近藤 智善 ○センター構成員 各事業部門の長（兼任）、 事務局等 ○センターが行う事業 ① 受託事業、共同事業管理部門 ② 治験管理部門 ③ 知的財産管理部門 ④ トランスレーショナルリサーチ部門	○目的 ① 県民の健康増進 ② 県観光振興への貢献 ③ 自然の健康への効用（癒しの効果等）の解明 地域産業振興への貢献 ○センター長 篠崎 和弘 ○センター構成員 寄附講座の責任教員（兼任）、 寄附講座により採用された教員（専任）、事務局等 ○センターが行う３つの研究分野 ① 伝統医学研究部門 ・機能性医薬食品探索講座（梅食品等） ・その他（柿酢、米ぬか、漢方薬等） ② 観光医学研究部門 ・観光医学講座 ③ 環境制御予防医学研究部門 ・病態栄養治療学講座 ・生活習慣病予防医学講座（予定） ・小児成育医療支援学講座（受託事業） ・周産期医療支援学講座（受託事業）

『健康増進・癒しの科学センター』

このセンターの目的は、①県民の健康増進、②県観光振興への貢献、③自然の健康への効用（癒しの効果等）の解明、④地域産業振興への貢献である。

このセンターには３つの部門があり、伝統医学研究部門には、機能性医薬食品探索講座が、観光医学研究部門には、観光医学講座がそれぞれ産業界からの寄附講座として設置されている。

環境制御予防医学研究部門には、病態栄養治療学講座（産業界からの寄附講座）、小児成育医療支援講座、地域医療学講座、周産期医療支援学講座（以上は和歌山市との連携による受託講座）が設置されている。

機能性医薬食品探索講座は、平成 18 年に開講し、主に消化器内科が主管し、研究計画は以下のとおりである。

①食品の摂取により慢性胃炎に及ぼす影響

②食品摂取による萎縮性胃炎進展制御の検討

③化生性胃炎症例に対する食品摂取効果に関する検討

④ヘリコバクター除去後の胃粘膜に対する食品の作用

⑤食品摂取による腸内細菌に関する研究

観光医学講座は、平成 18 年７月に開講し、以下を目的としている。

①観光資源による癒しの効果の科学的検証

②添乗員の教育プログラム

③感染症対策マニュアル

④医療サービスを付加した観光の企画

⑤観光医療指導師の育成

なお、平成 18 年 10 月に本学にて「観光医学講座」開講セミナー、同年 11 月に東京にて「ヘルスツーリズム・シンポジウム」、平成 19 年２月に全日空ゲートタワーホテル大阪にて「観光医療研修に関わるシンポジウム」を開催し、いずれも盛会裏に終了した。また、観光医療指導師と観光健康指導士の認定講座・実技講習を開催した。

病態栄養治療学講座は、平成 16 年 10 月に第一内科（糖尿病）が主管となって寄附講座としてのスタートをきった。患者の相談や病院の患者の食生活管理や指導、あるいは病態栄養を研究しようという体制が整備されている。最近は、Nutrition Support Team（NST）の中心となり、学生講義も開始し、病態栄養治療部が開設されるに至っている。

小児成育医療支援講座は、小児科が主管となって、和歌山市の受託講座として、平成 18 年５月から開始され、こどもの心あるいは身体のケアに関する事業を行っている。

『臨床研究管理センター』

従来、大学病院で行っていた臨床治験のシステムを統括し、さらに知的財産権管理やトランスレーショナルリサーチをも包括するものである。活動内容については、

①受託事業、共同事業の管理

②治験の管理

③知的財産権の管理

④トランスレーショナルリサーチで、それぞれ研究部門を設置している。

『先進医療開発センター』

日進月歩しつづける医療技術の開発・普及等を行うため、先端医療開発普及講座と細胞・遺伝子治療学講座を設置している。ともに産業界からの寄附講座として設置されている。(細胞・遺伝子治療学講座は平成19年度中に開講予定)

先端医療開発普及講座は、整形外科が主管となり、平成 18 年度からスタートした。脊椎の内視鏡手術にナビゲーションシステムを取り入れた手術器械や手術支援システムを開発し、さらに低侵襲な脊椎手術を実現するために研究がなされている。既に実地診療に生かされており、全国から多くの患者が来院している。

【点検・評価】

平成 18 年度において、産官学連携推進事業の取組として、共同研究・受託事業など外部資金を活用し、自然の健康への効用（癒しの効果）等の研究を行い、県民の健康増進に寄与するとともに、観光振興にも貢献できるよう事業を行ったところであり、受託研究 18 件、共同研究３件、寄附講座６件を受託した。

企業や地方公共団体からの外部資金を活用した積極的な教育・研究活動を展開できていることは、大いに評価できる。

【改善・改革に向けた方策】

今後も、産官学連携推進事業を推進するとともに、「地域発」による「和歌山ブランド」の開発等を政府公共機関のみならず、産業界等との連携のもと、研究を積み重ねることにより、地域振興・観光産業など『社会貢献のできる大学』を目指していく。

2 保健看護学部

2－1 社会への貢献

◎主要点検・評価項目

・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度
・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況
・教育研究上の成果の市民への還元状況

【現状】

本学は、学部4年間を通じたカリキュラムとして、全ライフステージの地域住民を対象として行う統合教育カリキュラムを実施しており、学部の教育改革理念と学生の学び、そして地域の要望・地域との連携に即したものである。

全ライフステージの地域住民を対象としたカリキュラムは、まさに保健・医療・福祉の幅広い視点をもった総合的な健康づくりを推進できる人材育成の保健看護教育カリキュラムである。

学生には、住民との触れ合いから医療人として人間の理解を深めることや信頼関係を築くための協調性・コミュニケーション能力や多様な情報を捕らえ適切な判断をする力を習得することが期待でき、同時に、教員の貴重な生涯学習の場となるのみならず、地域住民の安心感、健康増進や疾病予防、さらには過疎地域では村おこしといった地域の活性化に繋がることが期待できるものである。

こうしたカリキュラムは、『地域と連携した健康づくりカリキュラム』として平成18年度文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されている。実習を行う地域は、和歌山県の紀中まで広域に及び、また、その施設は、地域の特徴ある施設である市町村保健センター、スポーツ施設、保育所、小・中学校、企業、漁業組合、漆器組合、高齢者施設等 80 カ所以上の多くの施設の協力を得ている。具体的には、下図のような実習計画をとっている。

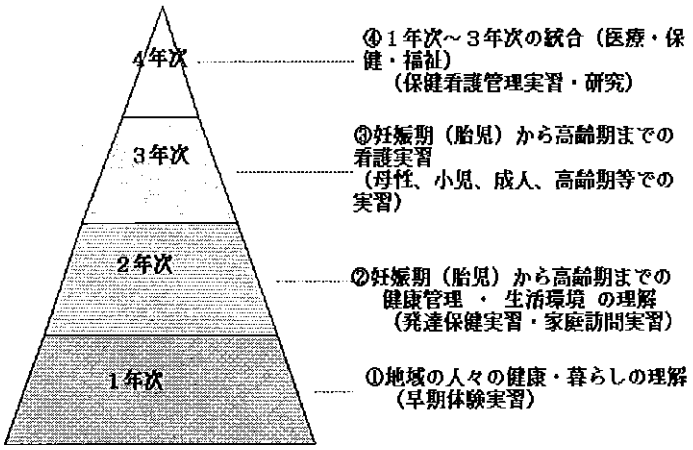

図2　実習の学年進行

本学は地域社会に開かれた大学として、多様化・高度化する保健医療に関して県民のニーズに対応するために、公開講座を開催している。

公開講座では、県民の方々に健康に関わる学習の機会を提供するとともに、看護職はもちろん保健・医療・福祉に携わる関係機関や団体の方々と協力や情報交換を行うことによって、広く県民の保健・医療の向上に寄与することを目的として実施している。

また、県民に対する教育振興のための「きのくに県民カレッジ」に他の高等教育機関と共に参加している。公開講座の規模として約 100 人の参加者を想定し、1年間に少なくとも2回実施し、遠隔地域へ出向いている。

平成 16 年度は、保健看護学部の開設を記念して、記念式典及び公開講演会を平成 16 年5月8日(土)に和歌山県立医科大学講堂で開催した。記念式典は、知事式辞、来賓祝辞、来賓紹介、学長謝辞に続いて、学生代表から誓いの言葉が述べられた。公開講演会は、「予防医療のエヴィデンス」と題し、慶應義塾常任理事、慶應義塾大学スポーツ医学研究センター所長の山崎元教授を招いて行なった。記念式典と公開講演会は、300 人を超す多くの方々の参加があった。

公開講座としては本学と田辺市の2会場とし、開催地域から住民の健康等に関するニーズなどの情報を収集し、テーマを「心の健康」とした。若い世代の方々が参加しやすいように託児所を設けることにした。広報のためのタイトルとして、「人生を旅するための健康を　～すこやかな心を求めて～」とした。

(1) 内容

【子どもの心を育てる】子どもが何かを求めて叫んでいる時に、親などがそれを正しく受け止めて、「愛する」「ほめる」「認める」のような心のこもった言葉をかけると、まるで魔法の言葉のようにどんな子どもでも健やかに育つことでしょう。そこで、親や保育者、先生など子ども達に関わる人たちと一緒に、

普段の生活の中でよりよい成長につながるヒントを見出したいと思います。

【あなたの心は疲れていませんか？】私達は、仕事や職業生活のみならず、子どもや家庭のことなど私生活においても、絶えず精神的なストレスを感じながら生活しています。避けることのできないストレスなら、病気にならないように上手に付き合うべきでしょう。そこで、心の疲れを癒しながら、快適な毎日を送るために、日常生活の中で上手にストレスと付き合う方法を考えてみませんか！

(2) 開催日時・場所・受講者数・託児数　　(単位:名)

日　時	会　場	受講者数	託児数
10月23日(土) 13:30～16:00	本学	105	6
11月27日(土) 13:30～16:00	田辺市生涯学習センター	76	3
合　計		181	9

平成17年度は本学と橋本市の2会場とし、開催地域から住民の健康等に関するニーズなどの情報を収集し、テーマは"高齢者の健康―①認知症をめぐって　②骨粗鬆症をめぐって"に焦点をあてることにし、骨密度測定や認知症の自己チェック等、自己参加的側面を加えた。広報のためのタイトルとして、「人生を旅するための健康を　～いきいきライフをつくろう～　」とした。

(1)内容

【脳の健康チェックをしましょう】平成16年12月に、厚生労働省は痴呆症を改め認知症としました。認知症は、心の生活習慣病とも一部に呼ばれ、日々の生活を見直すことが肝要です。さらに、認知症を予防する上で、まず認知症を正しく理解することが重要です。その症状、原因、治療法について紹介し、物忘れ自己検診をして脳の健康をチェックしてみましょう。

【認知症の予防は生活習慣の見直しから】認知症もなく、寝たきりにもならず、最後まで元気に暮らしたいと誰でも望んでいます。いわゆる PPK(ピンピンコロリ)です。人間、将来のことはわかりませんが、認知症にならない、あるいは、なる確率を低くするために生活習慣を見直し、生き生きとした老後について一緒に考えてみたいと思います。

【あなたの骨、お元気ですか？】あなたの骨も、新陳代謝しています。古くなった成分は溶かされて(吸収)、そこに新しい成分が形成され(形成)、カルシウムが定着していきます。骨の吸収と形成のバランスが何らかの理由で崩れ、吸収の方が強くなると、骨の破壊が進み、骨折しやすくなります。この状態が「骨粗しょう症」です。この危険な状態を回避する秘策をお教えします。

【骨と上手につき合う法】骨のことをよく知り食生活を工夫することは、骨粗しょう症の予防に大変有効です。しかし、加齢とともに骨量の減少は避けられません。今後ますます進む高齢化。これに比例して骨粗しょう症の発症も増加することが予想されます。健康づくりは骨からです。さあ、今から予防を始めましょう。

(2) 開催日時・場所・受講者数　　(単位:名)

日　時	会　場	受講者数
10月29日(土) 13:30～16:00	橋本市民会館	70
11月12日(土) 13:30～16:00	本学	55
合　計		125

平成18年度は本学と田辺市の2会場とし、開催地域から住民の健康等に関するニーズなどの情報を収集し、テーマは「メタボリックシンドローム」に焦点をあてることにし、骨密度測定等の自己参加的側面を加えた。

(1)内容

【動脈硬化を防ごう！】内臓脂肪の蓄積に、高血圧や高血糖、脂質代謝異常などが重なった病態である「メタボリックシンドローム」が注目されている。メタボリックシンドロームを放置すれば、ドミノ倒しのように、高血圧症や、糖尿病、高脂血症を引き起こし、ついには心筋梗塞や脳卒中などの心血管病を発症する。メタボリックシンドロームについて学び、動脈硬化の予防について考えてみよう。

【生活習慣を見直しましょう】最近、特に内臓のまわりに付着した脂肪が様々な生活習慣病を引き起こし、動脈硬化になりやすいことがわかってきました。内臓脂肪蓄積により病気が引き起こされた状態は「メタボリックシンドローム」と言われ注目されています。そこで、生活習慣、特に食事習慣について見直し、内臓脂肪型肥満を予防するための方法を紹介します。

【メタボリックシンドロームって何？】平成17年4月に、メタボリックシンドロームの診断基準が発表された。それは、内臓脂肪蓄積があり、さらに高血糖、脂質代謝異常、高血圧のうち2つ以上重ねもつ場合、メタボリックシンドロームと診断するものです。その病態、診断、治療法について紹介し、メタボリックシンドロームのリスクについて一緒に考えてみたいと思います。

(2) 開催日時・場所・受講者数　　(単位:名)

日　時	会　場	受講者数
10月14日(土) 13:30～16:00	本学	76
11月11日(土) 13:30～16:00	田辺市ビッグ・ユー	66
合　計		142

本講座は、多くの県民や関係者の参加があり、好評を博している。また、県民の方から、積極的な質問がなされている。また、参加者にアンケートを実施し次回以降の公開講座の参考にしている。

本学は地域社会に開かれた大学として、人材育成、指導・助言、調査研究、情報発信等の活動を

通して、教育研究上の成果を地域住民へ還元している。
人材育成では、以下の活動を行っている。

①出前授業：上記の公開講座以外に、平成17年度より出前講義として、地域の小学生～高校生を対象に授業を実施している。

平成17年度は、以下の取組があげられる。

- お腹の中の赤ちゃんの不思議な能力．岩出町立岩出中学校，平成17年12月，岩出町
- 妊娠のしくみと赤ちゃんの発育．和歌山県立和歌山盲学校，平成18年2月，和歌山市
- お腹の中の赤ちゃんの成長と能力．かつらぎ町立妙寺小学校，平成18年3月，かつらぎ町

平成18年度は、以下の取組があげられる。

- よく分かる心臓の仕組みと役割．和歌山県立向陽高等学校，平成18年11月，和歌山市
- 脳とテレビゲーム―脳の仕組み―．日高川町立和佐小学校，平成18年11月，日高川町
- 脳とテレビゲーム―脳の仕組み―．印南町立真妻小学校，平成18年11月，印南町
- 脳とテレビゲーム―脳の仕組み―．紀ノ川市立貴志川中学校,平成18年12月，紀の川市

②高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座：和歌山県内の高等教育機関が連携し開催する、地域住民への公開講座に参加している。

平成16年度は、

- 精神障害者福祉の現状について．身体障害者リハビリ橋本，平成16年8月，橋本市

平成17年度は、

- 更年期の上手な過ごし方．　平成17年7月，湯浅町
- 子どもへの虐待はどうしておこるの．平成17年7月，有田市

があげられる。

③和歌山県立医科大学公開講座：医学部の地域住民への公開講座に平成17年度より参加している。

平成17年度は、

- 脳の老化を防ぐためのひと工夫―現在版「読み書きそろばん」
- 家庭で行う血圧の管理
- 高齢者に優しい食事の工夫

平成18年度は、

- 更年期障害の実際と家庭でできること
- 65歳からの心のケア、体のケア

があげられる。

指導・助言では、保健、医療、福祉、他の看護教育機関への各種講演会・研修会などの講師や学術学会での発表を担当し、看護等の専門職者の最新の知識の習得の場を提供している。その活動状況は、平成16年度148件　平成17年度143件、平成18年度132件であった。また、県内の看護教育機関連絡協議会、乳がん看護研究会、子どもの虐待防止協会の事務局を務めている。

調査研究では、様々な項目に取り組み、その成果を地域へ還元している。学部内では、研究費の一部を財源に共同研究を推進しており、実習施設との共同研究、若手奨励研究などの募集を行なっている。

また、平成 17,18 年度の県の委託研究として、柿酢の摂取による健康への効果に関する調査研究を実施している。

さらに、厚生労働省による地域保健推進特別事業として、平成16年から18年にかけ児童虐待防止ネットワークを構築するための調査研究を行なっている。

情報発信では、学部ホームページに、教員の教育内容、教員からのリレーメッセージを公開している。さらに、公開講座の紹介も行なっている。

様々な調査研究の成果を学術集会で発表し、その一部は保健看護学部紀要や学術誌に報告している。県の委託や厚生労働省による地域保健推進特別事業の調査研究に関しては、報告書を作成している。

【点検・評価】

地域と連携した健康づくりカリキュラムは、全学部的な取組であり、実習を中心に担う母性、小児、成人、高齢者等を担当する教員が評価体制を構築し、このグループを中心に評価を行う。その結果を全学部教員に伝達し評価の確認をし、さらに次年度に向けて実習の内容を検討する。評価の内容は、学生については実習後に学生自身による自己評価、レポート、報告会での発表等を参考に行う。

さらに、実習指導の教員による実習内容についての評価、実習現地の指導者からの実習内容についての評価も行い、学生と教員、実習現地指導者の3側面からの評価を行う。

教育カリキュラムについては、教務学生委員会、自己点検委員会が評価を行う。さらに、実習機関とも協議を行いカリキュラム評価の参考にする。

公開講座では、参加者に対するアンケートを実施し、感想及び希望調査を行い検討・評価している。

学術交流では、他施設の専門職者との交流により、点検・評価し、研究・教育・実践の向上につなげている。

調査研究では、各研究を FD 委員会主催の学内での発表会で、報告し意見交流を図っている。また、成果を報告し、点検・評価している。

情報発信については、学術情報委員会で、ホームページの点検を行い、学生からのメッセージ、教員の専門領域、研究内容等の情報公開を検討している。

【改善・改革に向けた方策】

カリキュラムについては、全体を含めた検討委員会を設立し、本カリキュラムを検討し、現代的教育ニーズ取組支援プログラムとしての実践を図っていく。そのために、地域との連携をより深めるために連絡協議会やセミナーの開催を導入していきたい。また、第三者評価の導入を検討していきたい。

公開講座では、本学部の特徴のあるものを企画・検討していきたい。会場設定の改善や広報活動でのインターネットを含めた幅広い広報媒体の活用を図っていきたい。そのためには、企業との

共催等も考慮していきたいと考えている。

成果の還元においては、連携機関の学校、他の高等教育機関、医学部との連携が重要である。その中で、本学部の特徴のある公開講座・出前授業を企画・検討していきたい。また、成果については、インターネットを含めた広報媒体により広く地域に還元していきたい。

学術交流では、現場の実践専門職者との間のより密な交流を図っていきたい。

調査研究では、地域や行政の社会的ニーズを考慮した調査研究をより拡大していきたい。同時に外部研究資金の導入をより図り、学部の特徴ある研究へ発展させていきたい。

情報発信では、より社会への公開性のため、ホームページの充実を図っていきたい。